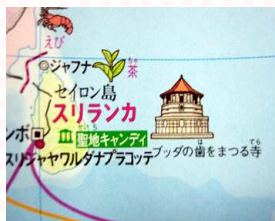


お釈迦様の歯が現存しているらしい -スリランカの仏歯寺-

この間、世界地図をぼんやり見ていたら、「仏陀の歯を祭る寺」その名も、「仏歯寺 Temple of the Tooth」を発見しました。仏教の聖地であるスリランカのキャンディにあるのですが、お釈迦様の歯は写真のような黄金の壺に保管されているので、普段は見る事ができず、写真撮影も禁止のようです。しかし、歯がすごく大きく見えるのは気のせいでしょうか？



お釈迦様は歯を大切にしていました。仏典にも菩提樹の枝で歯磨きをしていた、と書かれています。お釈迦様は、口腔内を歯木（しばく）で清掃することによって、五つの功德があるといいました。一つは口中の臭気を除く、二つには食物の風味がよくなり、三つには口中の熱を除き、四つには痰を除き、五つには眼がよくなる（？）とのことだそうです。

お釈迦様といえば、物が壊れたりダメになることを「お釈迦になる」といいますが、その語源をご存知でしょうか？ いくつか説があるようですが、こんな面白い語呂合わせの説もあるそうです。もともと鋳物屋さん(金属を溶かして鋳型に流し込み成型して金属加工品物を作る職人さん)などで使われていた言葉だそうです。金属を溶かして鋳込む時に火が強すぎると、温度が上がり過ぎて上手く鋳込めず、不良品が出てしまいます。そんな失敗した時には、「しくじった。火が強かった」といい、江戸っ子は「ひ」が「し」になってしまうことから、「しがつよかった」になり、これが「4月8日だ」と聞こえることから、4月8日=お釈迦様の誕生日に引っ掛けて、不良品や欠陥品が出ることを「お釈迦になる」と言い始めたらしいのです。本当かどうか知りませんが、ニヤリとさせられる話ですね。

カムカムニュース 平成 26 年 3・4 月号

発行人 カムカムセンター かなもり歯科クリニック 院長 金森市朗

TEL 072-846-2237 HP <http://www.kanamori-dc.jp/>



カムカムニュース

平成26年3・4月号



春がやって来ました。春といえば、花見ですね。枚方にも桜の綺麗なところがたくさんあります。この辺りでは、「天の川の河川敷」が見応えがあるのではないのでしょうか？ひらひらと舞い散る桜の花びらはなんとも風流ですね。以前はなんとも思わなかったのですが、桜を見ると、お弁当を持って花見にお出かけしたいと思うようになりました。

かなもり歯科クリニック院長 金森市朗

Kanamori
Dental
Clinic

